

# 社会医療法人ペガサス リハビリテーション部 教育計画

## 1. 教育理念～社会医療法人ペガサスの理念を体現できるセラピストへ～

- 1) 患者中心
- 2) 専門家としての自己研鑽(エビデンスに基づくリハビリテーションの推進)
- 3) 地域包括ケアを実現できる(急性期から生活期まで継続的なリハビリテーション)
- 4) 多職種協働
- 5) 指導・教育能力の向上

## 2. リハビリテーションスタッフの達成目標

	目標
Step I (1年目)	社会人・医療人としての自覚形成 適切な評価・訓練
Step II (2～3年目)	急性期から維持期まで多様な疾患に対して自立して評価・訓練
Step III (4～5年目)	多様な疾患に対する評価・訓練 地域医療におけるPT・OT・STの役割を学習・実践
Step IV (6～9年目)	臨床スキルの全般的な向上 チームリーダーとしての教育・指導・管理
Step V (10年目以上)	幅広い疾患・病態に対応でき、得意分野(脳血管、運動器、循環器、呼吸器など)を持つ

## リハビリテーション部 年間研修スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
法人全体	Pegasus Institute of Community Health : 懇話会(研究発表会) 月1回開催											南大阪リハ学会
	BMHカンファレンス 月1回開催											
	入職時研修	医療技術部 研修  回復期 合同勉強会	RM研修  健康保険 組合研修	医療技術部 研修	管理職研修  整形外科 勉強会	医療技術部 研修  回復期 合同勉強会	医療ガス研修  健康保険 組合研修	接遇研修  医療技術部 研修  脳外科 勉強会	感染症研修	管理職研修  医療技術部 研修  回復期 合同勉強会	RM研修	医療技術部 研修
リハ部	POS:BLS研修 月2回実施											
	POS:吸引研修 月1回実施											
	ST:嚔下勉強会 週1回実施											
	入職時研修	急変対応研修	Pain Control Team 勉強会	Brace Stewardship Team 勉強会	情報収集 (電子カルテ) 画像所見	CVA リスク管理 勉強会	循環器 勉強会	バイメカ 勉強会	保険医療制度 研修	介護物品 勉強会	車椅子 勉強会	整形 勉強会
POS	POS	POS	PO	POS	POS	PO	PO	POS	POS	POS	PO	

※随時かつ毎週1回、症例検討会/勉強会は開催

※随時、学会参加後は、参加者による還元講習実施

# 臨床能力評価一覧

	項目	具体的内容	Step I (1年)	Step II (2~3年年)	Step III (4~5年)	Step IV (6~9年)	Step V (10年~)
①	Communication skill	患者・家族・スタッフと信頼関係を築き、積極的に関わることができる。	・患者へ適切な言葉使いができる ・指導者に報告・連絡・相談ができる ・指導のもと、患者・家族より情報収集ができる	・患者へ適切な言葉使いができる ・患者、家族より適切に情報収集ができる ・チーム内で積極的に情報交換をすることができる	・患者への適切な言葉使いができ、後輩に指導できる ・患者、家族よりの確かな情報収集を行い、問題点を明確にすることができる ・チーム内で建設的な情報交換がで	・Unit Memberと常にcommunicationをとり、報告・連絡・相談ができる ・法人内の各部署とコミュニケーションをとることができる	・問題が発生した時に、的確な対応ができる ・部署の運営について、法人内で連携をとることができる
②	理学療法評価	治療につながる評価が正確にできる	・指導のもと、整形疾患、脳卒中患者の評価ができる	・整形疾患、脳卒中患者の評価ができる(急性期・回復期・維持期を含めて)	様々な疾患に応じた評価ができ、後輩に指導ができる	様々な疾患に応じた評価ができ、後輩に指導ができる	・Step IV以下のスタッフに、助言・指導することができる
③	運動療法・ADL訓練	理学療法評価に基づき的確かつ安全に運動療法・ADL訓練が提供できる	・指導のもと運動療法・ADL訓練が実施できる(質・量を含む)	・助言のもと、運動療法・ADL訓練が実施できる(質・量を含む)	・適切な運動療法・ADL訓練を実施でき、後輩に指導できる	・専門性の高い運動療法・ADL訓練を実施しかつ効果を実証できる	・Step IV以下のスタッフに、助言・指導することができる
④	リスク管理	患者の治療に関わるすべてのリスクを適切に管理できる	・指導のもと、全身状態(バイタルサイン)、整形疾患(荷重量・禁忌肢位)、脳卒中中の安静度を把握できる ・急変時のマニュアルを理解することができる	・全身状態(バイタルサイン)、整形疾患(荷重量・禁忌肢位)、脳卒中中の安静度を把握できる ・急変時、指示に従って的確に行動し、主治医・リハ医・所属長に報告ができる	・原疾患、合併症、既往歴の特徴を理解し、状態に応じてリスクの可能性を予測できる ・急変時、的確に行動し、報告ができる	・リスク管理について、Unit Memberに指導およびフィードバックができる ・急変時、マニュアルに応じて的確な指示をだすことができる	・Step IVのスタッフに急変やRM発生時の原因分析を周知させることができる ・リスクの予測ができ、事故防止のための対策がとれる
⑤	装具 歩行補助具 車椅子	患者の身体機能、能力、生活環境に応じた装具や歩行補助具の選択し、提供できる	・種々の装具や歩行補助具・車椅子の使用方法を理解している ・指導のもと、適切な補装具の選択ができる	・助言のもと、適切な装具や歩行補助具、車椅子を選択できる	・適切な装具や歩行補助具、車椅子を選択できる ・給付や保険の制度が理解できている	・装具や歩行補助具、車椅子の適正や効果を実証できる	・Step IV以下のスタッフに、助言・指導することができる
⑥	家庭訪問	患者の身体機能、能力、生活環境に応じた介助指導、改修案を提供できる	指導のもと、家庭訪問前の準備、家庭訪問の実施、報告書の作成が行える	・助言のもと、家庭訪問前の準備、家庭訪問の実施、報告書の作成が行える	・家庭訪問時、状況に応じた適切な判断と、患者・家族・CM・業者から情報収集および退院の準備を行うことができる	・家庭訪問に関わる全ての過程を適切に行うことができる	・Step IV以下のスタッフに、助言・指導することができる
⑦	カルテ 報告書 書類処理	専門的、かつ明確なカルテ記載、報告書、サマリーを作成し、処理することができる	・指導のもと専門的かつ明確なカルテの記載、報告書、サマリーの作成ができる ・指導のもと書類の処理を行うことができる	・定期的に、指導者からチェックを受けながら、専門的かつ明確なカルテの記載、報告書、サマリーの作成ができる ・書類の処理を不備なく行うことができる	・専門的かつ明確なカルテの記載、報告書、サマリーの作成ができる ・書類の処理を不備なく行うことができる	・Step III以下のスタッフに、カルテ、報告書、申し送りに不備な点はないか確認し、適宜指導することができる ・書類の処理を不備なく行うことができる	・書類業務の不備数の低下に向けた取り組みができる ・書類の処理を不備なく行うことができる
⑧	管理・教育	部署における自分の立場役割を認識し、行動することができる	・「ベガサスの約束」「リハ部の理念」を理解できる ・部署内での担当業務を実施できる	・指導を受けながら、入院リハ計画の立案をすることができる ・部署内での担当業務に責任を持って実施できる	・目標を達成するためにユニット内の改善点を対策できる ・入院リハのスケジューリングを行うことができる ・担当業務を責任をもち、不備なく行うことができる ・1年目に指導ができる	・Unit Memberの健康状態を把握し、業務調整を相談することができる ・部署の改善に対して、立案することができる	・部署全体に気を配り、問題点に対しては、改善策の立案・実行・評価をすることができる ・部署の発展のために新たな取り組みを行うことができる
⑨	自己研鑽	エビデンスに基づくリハビリテーションを実践することができる。研究発表、症例発表することができる。積極的に院内の勉強会に参加できる	・リハ診察、ディスカッションの会に積極的に参加できる ・院内で症例検討を積極的にできる ・院内の勉強会に積極的に参加できる	・リハ診察、ディスカッションの会に担当患者をあげることができる ・症例発表ができる(堺市ブロック・南大阪リハ学会etc) ・OJTが推奨する研修会や学会に積極的に参加できる	IIIに加え研究発表ができる	・リハ診察、ディスカッションの会にunit内の患者をあげ、後追いをすることができる ・研究発表ができる ・症例報告の指導ができる ・院内で勉強会を開催できる	・研究発表や勉強会の開催ができる ・研修会や学会の目的や参加意義を部署内に伝達し、参加を促すことができる

# 臨床能力評価一覧

	項目	具体的内容	Step I (1年)	Step II (2~3年)	Step III (4~5年)	Step IV (6~9年)	Step V (10年~)
①	Communication skill	患者・家族・スタッフと信頼関係を築き、積極的に関わることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者へ適切な言葉使いができる</li> <li>指導者に報告・連絡・相談ができる</li> <li>指導のもと、患者・家族より情報収集ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者へ適切な言葉使いができる</li> <li>患者、家族より適切に情報収集ができる</li> <li>チーム内で積極的に情報交換をすることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者への適切な言葉使いができ、後輩に指導できる</li> <li>患者、家族よりの確かな情報収集を行い、問題点を明確にすることができる</li> <li>チーム内で建設的な情報交換がで</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Unit Memberと常にcommunicationをとり、報告・連絡・相談ができる</li> <li>法人内の各部署とコミュニケーションをとることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題が発生した時に、的確な対応ができる</li> <li>部署の運営について、法人内で連携をとることができる</li> </ul>
②	作業療法評価	治療につながる評価が正確にできる	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導のもと、整形疾患、脳卒中患者の評価ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整形疾患、脳卒中患者の評価ができる(急性期・回復期・維持期を含めて)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な疾患に応じた評価ができ、後輩に指導ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な疾患に応じた評価ができ、後輩に指導ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Step IV以下のスタッフに、助言・指導することができる</li> </ul>
③	訓練	評価に基づき確かつ安全に機能訓練・生活訓練ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導のもと機能訓練・生活訓練が実施できる(質・量を含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>助言のもと、機能訓練・生活訓練が実施できる(質・量を含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な機能訓練・生活訓練ができ、後輩に指導できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門性の高い機能訓練・生活訓練を実施しかつ効果を実証できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Step IV以下のスタッフに、助言・指導することができる</li> </ul>
④	リスク管理	患者の治療に関わるすべてのリスクを適切に管理できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導のもと、全身状態(バイタルサイン)、整形疾患(荷重量・禁忌肢位)、脳卒中中の安静度を把握できる</li> <li>急変時のマニュアルを理解することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全身状態(バイタルサイン)、整形疾患(荷重量・禁忌肢位)、脳卒中中の安静度を把握できる</li> <li>急変時、指示に従い的確に行動し、主治医・リハ医・所属長に報告ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原疾患、合併症、既往歴の特徴を理解し、状態に応じてリスクの可能性を予測できる</li> <li>急変時、的確に行動し、報告ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスク管理について、Unit Memberに指導およびフィードバックができる</li> <li>急変時、マニュアルに応じた的確な指示をだすことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Step IVのスタッフに急変やRM発生時の原因分析を周知させることができる</li> <li>リスクの予測ができ、事故防止のための対策がとれる</li> </ul>
⑤	用具	患者の身体機能、能力、生活環境に応じた装具や歩行補助具の選択し、提供できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>種々の装具や歩行補助具・車椅子の使用方法を理解している</li> <li>指導のもと、適切な補装具の選択ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>助言のもと、適切な装具や歩行補助具、車椅子を選択できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な装具や歩行補助具、車椅子を選択できる</li> <li>給付や保険の制度が理解できている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>装具や歩行補助具、車椅子の適正や効果を実証できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Step IV以下のスタッフに、助言・指導することができる</li> </ul>
⑥	家庭訪問	患者の身体機能、能力、生活環境に応じた介助指導、改修案を提供できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導のもと、家庭訪問前の準備、家庭訪問の実施、報告書の作成が行える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>助言のもと、家庭訪問前の準備、家庭訪問の実施、報告書の作成が行える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭訪問時、状況に応じた適切な判断と、患者・家族・CM・業者から情報収集および退院の準備を行うことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭訪問に関わる全ての過程を適切に行うことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Step IV以下のスタッフに、助言・指導することができる</li> </ul>
⑦	カルテ報告書類処理	専門的、かつ明確なカルテ記載、報告書、サマリーを作成し、処理することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導のもと専門的かつ明確なカルテの記載、報告書、サマリーの作成ができる</li> <li>指導のもと書類の処理を行うことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に、指導者からチェックを受けながら、専門的かつ明確なカルテの記載、報告書、サマリーの作成ができる</li> <li>書類の処理を不備なく行うことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門的かつ明確なカルテの記載、報告書、サマリーの作成ができる</li> <li>書類の処理を不備なく行うことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Step III以下のスタッフに、カルテ、報告書、申し送りに不備はないか確認し、適宜指導することができる</li> <li>書類の処理を不備なく行うことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書類業務の不備数の低下に向けた取り組みができる</li> <li>書類の処理を不備なく行うことができる</li> </ul>
⑧	管理・教育	部署における自分の立場役割を認識し、行動することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ペガサスの約束」「リハ部の理念」を理解できる</li> <li>部署内での担当業務を実施できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導を受けながら、入院リハ計画の立案をすることができる</li> <li>部署内での担当業務に責任を持って実施できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標を達成するためにユニット内の改善点を対策できる</li> <li>入院リハのスケジューリングを行うことができる</li> <li>担当業務を責任をもち、不備なく行うことができる</li> <li>1年目に指導ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Unit Memberの健康状態を把握し、業務調整を相談することができる</li> <li>部署の改善に対して、立案することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部署全体に気を配り、問題点に対しては、改善策の立案・実行・評価をすることができる</li> <li>部署の発展のために新たな取り組みを行うことができる</li> </ul>
⑨	自己研鑽	エビデンスに基づきリハビリテーションを実践することができる。研究発表、症例発表をすることができる。積極的に院内の勉強会に参加できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>リハ診察、ディスカッションの会に積極的に参加できる</li> <li>院内で症例検討を積極的にできる</li> <li>院内の勉強会に積極的に参加できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リハ診察、ディスカッションの会に担当患者をあげることができる</li> <li>症例発表ができる(堺市ブロック・南大阪リハ学会etc)</li> <li>OJTが推奨する研修会や学会に積極的に参加できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>IIIに加え研究発表ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リハ診察、ディスカッションの会にunit内の患者をあげ、後追いをすることができる</li> <li>研究発表ができる</li> <li>症例報告の指導ができる</li> <li>院内で勉強会を開催できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究発表や勉強会の開催ができる</li> <li>研修会や学会の目的や参加意義を部署内に伝達し、参加を促すことができる</li> </ul>

臨床能力評価一覧(ST)

2016年9月17日 渡邊美恵 作成

	項目	具体的内容	Step I (1年)	Step II (2年)	Step III (3~6年)	Step IV (6~10年)
①	Communication skill	患者・家族・スタッフと信頼関係を築き、積極的な意見交換ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者へ適切な言葉遣いができる</li> <li>指導者に報告・連絡・相談ができる</li> <li>指導者の指示、指導のもと、患者・家族より情報収集ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者へ適切な言葉遣いができる</li> <li>患者、家族より適切に情報収集ができる</li> <li>チーム内で積極的に情報交換をすることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者へ適切な言葉遣いができ、後輩に指導できる</li> <li>患者、家族よりの確かな情報収集を行い、問題点を明確にすることができる</li> <li>「協働」の意味を理解し、チーム内で建設的な情報交換ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人内の各部署とコミュニケーションをとることができる</li> </ul>
②	リスク管理	患者の治療に関わるすべてのリスクを適切に管理できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者の指導のもと、全身状態(バイタルサイン)、脳卒中の安静度を把握できる</li> <li>急変時の行動基準を理解することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全身状態(バイタルサイン)、疾患に応じた実施基準、安静度を把握できる</li> <li>急変時、指示に従い的確に行動し、主治医・リハ医・所属長に報告できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原疾患、合併症、既往歴の特徴を理解し、状態に応じてリスクの可能性を予測できる</li> <li>急変時、的確に行動し、報告ができる</li> <li>リスク管理に関して、後輩に指導できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスク管理について、後輩に指導およびフィードバックができる</li> <li>急変時、マニュアルに応じて的確な指示をだすことができる</li> </ul>
③	構音障害評価・訓練	構音障害について正しく評価し、適切な訓練が実施できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>SLTA補助テスト(構音)やAMSDが正しく実施できる</li> <li>指導のもと、必要な検査の選定、検査結果の分析ができる</li> <li>指導のもと、適切な訓練ができる</li> <li>指導のもと、重症度・タイプ分類ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検査の分析ができる</li> <li>目標設定、訓練立案ができる</li> <li>日常生活の中での問題点に分かる</li> <li>問題点の優先順位がつけられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検査の正確な分析ができる</li> <li>根拠のある目標設定、訓練立案ができる</li> <li>総合的に評価し、効果的な訓練を提供できる</li> <li>必要な文献を探索し、活用できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全般的な評価の知識、技術をもち転帰予測のもと質の高い訓練を提供できる</li> <li>フォローの患者の評価、訓練について助言・指導ができる</li> <li>文献を活用した指導ができる</li> </ul>
④	失語症評価・訓練	失語症について正しく評価し、適切な訓練が実施できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>SLTAが正しく実施できる</li> <li>指導のもと、必要な検査の選定、検査結果の分析ができる</li> <li>指導のもと、適切な訓練ができる</li> <li>指導のもと、重症度・タイプ分類ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検査の分析ができる</li> <li>目標設定、訓練立案ができる</li> <li>日常生活の中での問題点に分かる</li> <li>問題点の優先順位がつけられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検査の正確な分析ができる</li> <li>根拠のある目標設定、訓練立案ができる</li> <li>総合的に評価し、効果的な訓練を提供できる</li> <li>必要な文献を探索し、活用できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全般的な評価の知識、技術をもち転帰予測のもと質の高い訓練を提供できる</li> <li>フォローの患者の評価、訓練について助言・指導ができる</li> <li>文献を活用した指導ができる</li> </ul>
⑤	高次脳機能障害評価・訓練	高次脳機能障害について正しく評価し、適切な訓練が実施できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>HDS-R、MMSEが正しく実施できる</li> <li>指導のもと、必要な検査の選定、検査結果の分析ができる</li> <li>指導のもと、適切な訓練ができる</li> <li>指導のもと、重症度・タイプ分類ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検査の分析ができる</li> <li>目標設定、訓練立案ができる</li> <li>日常生活の中での問題点に分かる</li> <li>問題点の優先順位がつけられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検査の正確な分析ができる</li> <li>根拠のある目標設定、訓練立案ができる</li> <li>総合的に評価し、効果的な訓練を提供できる</li> <li>必要な文献を探索し、活用できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全般的な評価の知識、技術をもち転帰予測のもと質の高い訓練を提供できる</li> <li>フォローの患者の評価、訓練について助言・指導ができる</li> <li>文献を活用した指導ができる</li> </ul>
⑥	摂食・嚥下障害評価・訓練	摂食・嚥下障害について正しく評価し、適切な訓練が実施できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導のもと、必要な検査の選定、検査結果の分析ができる</li> <li>指導のもと、適切な訓練ができる</li> <li>指導のもと、適切な食形態や環境を選定できる</li> <li>指導のもと、VF、VEの流れを組み立て、実施できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検査の分析ができる</li> <li>目標設定、訓練立案ができる(食形態・とり量等)</li> <li>日常生活の中での問題点に分かる</li> <li>VF、VEの流れを組み立て、実施できる</li> <li>院内の認定嚥下訓練士所得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検査の正確な分析ができる</li> <li>根拠のある目標設定、訓練立案ができる(食形態・とり量等)</li> <li>総合的に評価し、効果的な訓練を提供できる</li> <li>VF、VEが適切に実施でき、その結果を臨床に活かすことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全般的な評価の知識、技術をもち転帰予測のもと質の高い訓練を提供できる</li> <li>フォローの患者の評価、訓練について助言・指導ができる</li> <li>文献を活用した指導ができる</li> </ul>
⑦	ADL訓練環境調整	患者のADLを把握し、訓練に反映できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当患者のADLを把握できる</li> <li>指導のもと、病棟生活や今後の生活を意識した訓練ができる</li> <li>指導のもと、他職種・家族と情報を共有できる(食事介助方法やコミュニケーション手段 等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>病棟生活や今後の生活を意識した訓練ができる</li> <li>他職種・家族と情報を共有できる(食事介助方法やコミュニケーション手段 等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活に般化できるような訓練ができる</li> <li>他職種、家族の理解に応じた情報提供ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フォローの患者の日常生活に則した質の高い訓練を提供できる</li> <li>フォローの患者の病棟生活や今後の生活を意識したアプローチについて助言・指導ができる</li> </ul>
⑧	カルテ報告書書類処理	情報共有のために、専門的かつ明確にカルテ記載、報告書、サマリーを作成することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者の指導のもと専門的かつ明確なカルテの記載、報告書、サマリーの作成ができる</li> <li>指導者の指導のもと書類の処理を行うことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に、指導者からチェックを受けながら、専門的かつ明確なカルテの記載、報告書、サマリーの作成ができる</li> <li>書類の処理を不備なく行うことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門的かつ明確なカルテの記載、報告書、サマリーの作成ができる</li> <li>書類の処理を不備なく行うことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Step III以下のスタッフに、カルテ、報告書、申し送りに不備な点はないか確認し、適宜指導することができる</li> <li>書類の処理を不備なく行うことができる</li> </ul>
⑨	管理教育	部署における自分の立場役割を認識し、行動することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ベガサスの約束」「リハ部の理念」を理解できる</li> <li>部署内での担当業務を実施できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導を受けながら、入院リハ計画の立案をすることができる</li> <li>部署内での担当業務に責任を持って実施できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院リハ計画を立案し、進捗状況を確認することができる</li> <li>担当業務に責任を持ち、同僚の業務をフォローすることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>後輩の健康状態を把握し、業務調整を相談することができる</li> <li>部署の問題点に対して、改善点を立案し、相談することができる</li> </ul>
⑩	地域包括ケア	ベガサス・トータル・ヘルスケアにおける役割を果たすことができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベガサスの各部署、事業所の役割を理解できる</li> <li>回復期退院後の担当症例の通所リハや訪問リハに同行することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者の指導のもと、退院後の継続ケアについて、検討することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>退院後の継続ケアについて、検討することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括ケアについて指導することができる</li> </ul>
⑪	自己研鑽	エビデンスに基づくリハビリテーション実践のために積極的に院内の勉強会に参加できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>リハDr診察に積極的に参加することができる</li> <li>院内症例検討を積極的にできる</li> <li>院内(法人主催、リハ部主催、他部署主催)の勉強会に積極的に参加できる</li> <li>学会などで研究発表、症例発表することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当症例について、積極的にリハDr診察での検討をすることができる</li> <li>症例発表ができる(堺市ブロック・南大阪リハ学会etc)</li> <li>OJTが推奨する研修会や学会に積極的に参加できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当症例について、積極的にリハDr診察での検討をすることができる</li> <li>研究発表ができる</li> <li>OJTが推奨する研修会や学会に積極的に参加でき、後輩の参加を促すことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リハDr診察での検討を担当者へ促すことができる</li> <li>研究発表ができる</li> <li>院内で勉強会を開催できる</li> </ul>